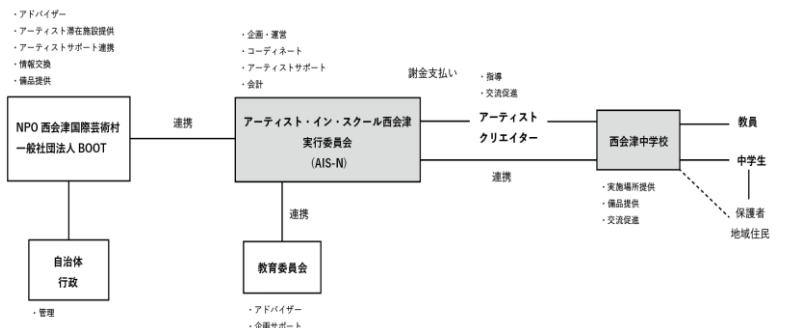


成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

アーティスト・イン・スクール西会津実行委員会

所在地	福島県西会津町	設立年	2021年
運営主体	アーティスト・イン・スクール西会津実行委員会		
事業目標	<p>福島県西会津町内の学校(西会津町立西会津中学校)の空き教室や多目的広場、図書館などを利用して、アーティストやクリエイターが教育現場にを一時的な拠点として、滞在制作や生徒との交流の中でアート活動を行う。</p> <p>国内外で活動している様々な芸術分野のアーティストやクリエイターとの交流を通して、多様な価値観、生き方を学ぶ機会を創出し、ものの見方にゆらぎを感じてもらい、これからの未来を担う生徒たちの創造性や可能性を引き出すことを目的とする。また現状の教育現場に新しい風を送り込み、教員や特に地方社会が抱える閉鎖的な地域構造や課題にアプローチする。</p>		
きっかけ	<p>学生時のアート体験がその後の人生に与える影響力は、具体的な数値では示されていない。しかし、これを企画している実行委員会のメンバーは、幼少期からアート体験を通して成長してきた。この体験を経て、それぞれがアーティストやコーディネーターなどの道に進んでいる。そのような道があることを学生のうちに示したい。また、町内に訪れるアーティストたちとの交流の促進にもつなげていきたい。出会いの数を多くすることが、必ずしも良いとは限らない。しかし、数を増やすことで、生徒たちの選択肢が増えることには違いない。そのきっかけになればいいと考え、この団体を設立した。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	西会津中学校、西会津国際芸術村など		
活動概要	<p>西会津町にアーティストを招聘し、滞在しながら制作を行ってもらう。制作場所は西会津町内に絞り、展示場所を西会津中学校内に行く。これまで現代アーティストの作品が1つのみだったが、本年度は3アーティスト、計5作品を展示した。(うち、3作品は海外アーティストの作品のため、常設にて展示)アーティストの作品は生徒含めて先生方にも注目されている。より多くのアーティストの訪問を期待されている。</p>		

○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

- ・コロナの影響もあり、こちらの望む通りの展開を見せることはできなかった。
- ・しかし、現代作家の作品を展示しておくことで、興味を示した生徒は多く見受けられた。
- ・アーティストが学校訪問をした際には、直接生徒が見学に来て、アーティストと話をする機会を設けられた。
- ・部活動への関与が本年は難しく、次年度からプログラムに盛り込んでいただけるように調整中である。
- ・アート作品を閲覧するのは、実際に展覧会などを行っている会場に足を運ばなくてはいけない。そのために先生方の引率が必要である。しかし、学校内に作品が展示されているというだけで、生徒たちが自由に閲覧する機会を得られる。この点は、実践されてきてはいないが、小さな町における重要な要素ではないだろうか。
- ・また、本企画が学校内に展開したことで、西会津国際芸術村が毎年開催している「公募展」の学校内展示も行えた。このことで、なかなか足を運ぶことのできない町内の文化施設の実態を確認できたのではないだろうか。

○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

- ・上記にも記した通り、指導まではコロナの影響もあり踏み込むことはできなかったため、特筆できる事項がない。

○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

- ・定期的な学校訪問やメールでのやりとりを続けて、学校への印象付けは行っている。
- ・アーティストが訪問する際、また作品を搬入した際には、放送にて全校生徒へ周知を行なっている。
- ・定期的な通信を作成し、アーティストの活動を伝えている。

○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を

- ・今後のアーティストの制作現場を中学校内に限らず、外へ展開をすることを考えていきたい。
- ・活動経費が助成金頼りになってしまっているため、町から安定した予算を受け持つことができていない。
- ・アーティストの参入に関しては、西会津町内で西会津国際芸術村が多く行なっているが、今年度ほど多岐に渡ってアーティストが町内に参加した年度はなかったため、定期的に町に関われる宿泊場所などの確保が大切になる。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

令和5年度には、4年度から引き続き制作を続けている外部アーティストの参入を計画している。作品完成に向けた段階でワークショップを開催する予定である。また、町内に移住しているクリエイターやアーティストにワークショップを行なっていただき、町内にさまざまな人材がいること、その人材が部活動という形を通して、学校と関わりを持つことを計画している。部活動の顧問や生徒とも意見交換を行い、この外部人材に当てられる予算などの確保を行なっていきたいと考えている。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『[地域移行\(展開\)を進める際のポイントチェックリスト](#)』を参照すること。

参加者 (予定人数)	全学年 20名程度(文化部) (文化部外からの参加も了承する)
募集方法	チラシ、ポスター、学内放送、直接の呼びかけ
指導者	外部アーティスト1名、当団体2名
移動手段	学内での実施を検討。バスや保護者の送迎を検討。
活動費用	500円/回(保険料)
スケジュール	新井穂子「象徴的交差点02(仮)」ワークショップ制作 4～5月・・・「会津だるま」リサーチ(文化部とともに施設見学など) モニュメントの考案を文化部とアーティストで行う 6月・・・ワークショップ説明会(学校側との打ち合わせ) 7月・・・公募案内 8月・・・新井穂子学内制作 9月・・・公募開始(10月頭締め切り) 10月3週目末・・・ワークショップ開始、文化祭にて完成品を発表(予定)
保険加入等	イベント賠償責任保険・対象人数900名まで

※文化庁ホームページ: [地域文化倶楽部\(仮称\)の創設に向けた検討会議](#) [事例集](#)を参照
掲載URL

(https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf)

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)